

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	姫路市キャストィ21イベントゾーン周辺地区の活性化												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和02年度 (3年間)												
交付対象	姫路市												
計画の目標	世界文化遺産姫路城を擁する姫路市の都心部は、古来より播磨の商業・業務・交通等の中心としての役割を果たしてきたが、近年の都心部を取り巻く環境や市民意識の変化などにより、その役割にも陰りが見られるようになってきた。そこで、本市の都心部に位置するキャストィ21イベントゾーン周辺地区において、市民の文化芸術の拠点となる文化コンベンションセンター等、市民の多様な交流を促進する拠点施設や、安全・安心、快適で、魅力的な都市空間を整備することにより、広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとるおいにあふれた中心市街地の再生及び活性化を目指す。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	8,881	A	8,881	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値	最終目標値 (H33末)
1	都心部における回遊性の向上の効果として、中心市街地における歩行者・自転車通行量を増加させる。 中心市街地における歩行者・自転車通行量(7箇所の合計)を測定する。	63639人	人	87700人
2	交流拠点の形成によるにぎわい創出の効果として、文化コンベンションセンターへの来場者数を、既存施設の姫路市文化センターへの来場者数から倍増させる。 文化コンベンションセンターへの年間来場者数を調査する。	362443人	人	724886人
3	デッキを通ることによる回遊性の向上の効果として、駅から文化コンベンションセンターまでの徒歩による所要時間を短縮する。 JR姫路駅から文化コンベンションセンター敷地までの、徒歩による所要時間を調査する。	15分	分	10分
4	行政と民間事業者等との連携・協働によるまちづくりを進めた効果として、JR山陽本線等の高架下空間の利用率を増加させる。 市が、JR山陽本線等連続立体交差事業で発生した鉄道高架下空間を活用している割合を調査する。	150(×0.1)%	(×0.1)%	165(×0.1)%
5	中心市街地に対する市民の満足度を1/2以上にする。 中心市街地に対する市民の評価(満足度)を調査する。	427(×0.1)%	(×0.1)%	500(×0.1)%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H30	H31	R02	R03	R04				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	暮らし・にぎわい再生事業(キャストイ21イベントゾーン周辺地区)	複合施設、駐車場、広場 A=7.6ha	姫路市						6,449	1.33	-	
												小計						6,449		
都市再生整備計画事業	A10-002	都市再生	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	キャストイ21イベントゾーン周辺地区都市再生整備計画事業	地域交流センター、公園、歩行者デッキ A=7.6ha	姫路市						2,432	1.33	-	
												小計						2,432		
										合計							8,881			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

姫路市において目標の達成状況と指標の達成状況を確認。

事後評価の実施時期

令和4年8月

公表の方法

姫路市ホームページにて公表

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する  
交付対象事業の効果の発現状況

目標値に届かない指標もあるが、今後施設の稼働率向上やまちなかの回遊性向上に伴い増加が今後期待される。

定量的指標以外の交付対象事業の  
効果の発現状況（必要に応じて記述）

特記事項（今後の方針等）

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	中心市街地における歩行者・自転車通行量（7箇所合計）を測定する。		
	最終目標値	87700人	新型コロナウイルスの影響もあり、全体的に通行量が減少しており、目標には届かず。引き続き大幅な増加は見込めないものの、新型コロナウイルスにより減少していた人も徐々に回復しており、今後施設稼働率の向上にも伴い通行量の増加が期待される。
	最終実績値	29476人	
2	文化・交流施設及びコンベンション・展示施設への年間来場者数を調査する。		
	最終目標値	724886人	新型コロナウイルスの影響もあり、稼働率に比して来館者数が少なく目標には届かなかった。関連事業を含めて基盤整備によるアクセス性の向上、中心拠点として一層の都市機能の集積、交流活動の場の整備により、既存の姫路市文化センター等への来場者数よりも増加した。また新型コロナウイルスにより減少していた人も徐々に回復しており、今後施設の稼働率の向上にも伴い来館者数の増加が期待できる。
	最終実績値	372745人	
3	JR姫路駅から文化コンベンションセンター敷地までの、徒歩による所要時間。		
	最終目標値	10分	
	最終実績値	10分	
4	市が、JR山陽本線等連続立体交差事業で発生した鉄道高架下空間を活用している割合。		
	最終目標値	165(×0.1)%	民間事業者との連携・共同により、1号公園等と一体となった交流空間としてJR播但線高架下を整備することにより利用率が増加した。
	最終実績値	203(×0.1)%	
5	中心市街地に対する市民の評価（満足度）を調査する。		
	最終目標値	500(×0.1)%	
	最終実績値	557(×0.1)%	

(参考図面)

